

法定



法定トハソリノ定リタルコトヲ平生ナスユエ
 尚流木カシ形ノコトヲ法定ト云ナリ形ハ人ニ生
 ニテ色ニ生ト云レ法定リタル処ヲ勤テ己ガ
 形成就スルニ其ハ尚流ニテハ形ヲワカウト云
 ヲツトムルト云己ガ職トシ勤テ己ニナスハキ
 必モ人形ヲツカウヤナル心ニテハ概行ナルヘ
 カラス

一 木ノハ長サ三尺シテ柄ヲ七寸ト定身ヲ
 二尺三寸ト定ナリ二尺三寸ナルトキハイカホトノ
 小ウテニテ此自由ニトリマハシナル故ナリ

二 敵ト立合タル間凡二間ホド心得シ二間
 ナル寸ハ丈丈ニ氣尚リテテキル故ナリ

初本 此名ヲ八相ト云

敵味方立命イソレヨリニアカル右ノ足ヲ引
 丸ノ足ヲ引テ揃ヘ又丸ヨリ一旦進ニ右ノ足モ
 進ミソロエル

ツクバイテ木ノカヲトル立アカリ大キクアタ
 マエカフ手ヲ罷ク寸ロコヲ左右ヘサク引テ
 快ニトリ丸ヲ引テ此ハハハニテソロヘ折テ

左ノ足ヲ引テ揃ヘ又左ヨリ一旦進ミ右ノ足モ
進ミソコエル

ツクバイテ木ノヲトル立アカリ大キクアタ
マエカフ切手ヲ罷ク寸口ヨリ左右ヘサク引手
快ニトリ左ノ足ヲ進ミ右ノ足ニテソコヘ打者
腹シタル如クテ右ノ肩ヘ左ノ肩ノ相ナリ左ノ
進ミ右ノ足ニテ敵ヨリ昔左ノ小口エカケ打ワレ
必ヨリ丈夫ニ打込ナカズミノハツレスヤウニスル
左敵ノ肩ケンエキ込ニテハナシ母ハ横エ向ク心ナリ
ソレヨリユルメテ木ノヲコキ胸エトリ

向ヨリカケル処ヲ左ノ手ヲ高クシテ右ヲ
ヒキリシテカケツレヨリ左ノ刀先ヲ右エハシ上段
カブリ真直ニ乳ノ通リノ警テ左ノ足ヲ出シテ
ソコヘ左ノ刀先ヲ左ヘマワシ右ノ足ヲ引上段ニトリ
向ノ肩頭ヘ左ノ刀ヲ延シテ氣ヲカケテカコリ
出シ右ノ足モ左ノ刀ト一折ニ出シ又左ヘ左ノ
先ヲマワシ上段ニカブリ下ヨリカケルヲ上ヨリ
打ナリ

ソレヨリ両足ヲ竝木ノ初トハ遠ハ下エ
左ノ足初ノ大キク踏ニトリ脚ノ小口膝ニ左ノ
打者力ハ右ノ足ノ内少快ヨリ右エテ上段
カブリ敵ノ左ノ小口エ向ケカケテ折也右ノ
エ木ノヲコキテトル

相向ノ木ノカヘカケ左ノ刀先を左エ大キクマワシ
テ出左エカブリ上段ヨリ向エ柄ヲ出ス下段
此ノ方ノ身ヲ上ヘ向ヘカラスヒラヲ折セリ
右ノ打者ノ刀垂ク記スヘケレハ仕左ノ刀ヲ垂ク
記スル故折者力ハソレニ准ミ勤ルテモハレハ大
畧ノ処ヲ記スルモ左ノ如ク折者力ヲ知ヘシ
折者力ヲ知シテは左ノ刀ヲ貴フニハアラス
以下皆效之

ト 二本 此ノ名と一刀両段ト云

手ヲ開キ上段ヘカブリ左ノ足ヲ踏出シ右ノ足ニテ
フミソコエ中段ニマワシ又上段ヘカブリ左ノ足ヲ一
フミ出シ右ノ足ニテフミソコエ
太刀ヲ昔肩頭通リニ腕ヲ延スヤウニ真直
手ノ下カラ又ヤウニ立テ折者力ヨリ引タルト
コヨリ左ノ刀先ヲ右ヘ丸クマワシ左ノ足ヲフミ

以下皆效之

二本 此名を一刀面段ト云

手ヲ腕キ上段ヘカブリ左足ヲ踏出し右足ニテ
フミソロエ中段ニテ右足又上段ヘカブリ左足ヲ一足
フミ出し右足ニテフミソロエ

太刀ヲ吾眉間通リニ腕ヲ延スヤウニ真直ニ
手ノ中カラ又ヤウニ立テ折左方ヨリ引タルト
コロリ左刀先ヲ右ヘ丸クマワシ左ノ足ヲフミ
出し右刀先ヲ向ノ眉間ヘ手モトハヒラニテ
刀先ヲ左エ廻シ向ノ折込ル眉間通リ氣
ノハツスヤウニ折込ル此方カ前リハ手ノ延
スギ又ヤウニ切本ノ八相ヨリ折込ト同変ニ

但折コムオ右足ヲフミソロエカケル踏ニテ左方ヲコキ
氣通ユル也

折左方カ向ノ足ヲソロエタル太刀吾左カヲ
横ヘヒツメテ向ヲトメ足ヲ引ハ相ニトリ向ヨリ
カスム如ク向ノ左ノ小口ヘ折込又ハ相ニトリ

三本 此名を右轉左轉ト云

手ヲヒラキ快ニトリ左足ヲ進ニ右足ニテ
踏ソロエ上段ヨリ向ノ眉間ヘ左刀先ヲ帯テ右
カヲ下ケ左足ヲ踏出し

踏踏入上段ヨリ向ノ眉間ヘ左刀先ヲ帯テ踏
眼ニテ向ノ上段ニ寄ル也右エ左カヲ下ケ左
足ヲ踏おし右足ニテ向ヨリ吾頭ヘ折込テ氣
ヲ以テ折之左カヲ體ト離レヌヤウニスベ
横ニツヨリカケヨル一ノキコウ

サテ折込タル左カヲ下ヘユルメテ左刀先ヲ
左エマワシ左足ヲ引向ノ眉間ヘ左カヲ延シ
下エ出ス此時右足モ出ス左カヲ左エ廻シ
下ヘ出タル向ノ左カノヒラヲ上段ヨリ折テ
左刀先ヲ左エ向ケ首通リエヒラヘ向ケテ
右ノ足ヲ少シ左エ出ス

ソレヨリ右ヘ廻シ上段ヨリ向ノ眉間ヘ折込
サトキ左足ヲアゲテ折込故體ノスワリヤ
シキ故直ニ左足ヲカコリフミ右足ヲ少シウケ
早クシカトフミ左足ヲ少シアケル心ニヤシソレ
ヨリ左刀先ヲ左ヘマワシカブリテ上段ヨリ向
ノ眉間ヘ出スヤリ

折左カハ面快ヨリ右轉シテ向ヨリ眉間ヘ
氣ノ帯リタル上段ニカブリ向ノ頭ヘ折込

此トキ在右ニテアケテ也故體ノスワリヤ
シキ故直ニ在右ニテカワリフニ右ヨリセウヤ
早クシカトフミ在右ニテ少シアケル心ニキソレ
ヨリ右カ先ヲ左ヘマワシカフリテ上修ヨリ向
眉向ヘ出スナリ

右カ力ハ向快ヨリ右轉シテ向ヨリ眉向ヘ
氣ノ當リタル上修ニカフリ向ノ頭ヘキ云ニ
ソレヨリハ子ノ首知延ハ別支ナシ初本ニ類ス向
ヨリ眉向ヘ折込寸ハ折カ力ハ向ノ左カノ衝ヲ
丹ニテヒシト氣ヲ當テ折イハ木カヲ先エ
出シ待テアル心ニテハ世ノ請カカト云ニ成テ
氣當リナリ尚流ノ執行ニハツレ申ナリ

一 四本 此名ニ長後一味ト云

二本ニ類ス上修ヨリ青筋ニラロシ右カ先ヲ動ス
又上修カカフリテラロシ又上修カトリ在右ヲ出ス
右カ先ヲソロハカカヲニシタル処ニテ在右ニテ右カ
カケテ向ヨリ胸ノ通リヘ出ルテウシ又右カ先ヲ太キ
右カ廻シ向ヨリ胸通リヘ出ルカカヲニシテ右カ
引是ハ突ニモ折ニモ非ズ向ノ胸ノ通リヘ氣ヲ
南ニシカシナカテ月身ヲカエス向ヘ氣當リ大支
ナリサテ向ノ唯ノ通リヲ突大キク左ヘカフリ
上修ヨリ向ノ眉向ヘ折込此トキ右足ヲフミ出
ナリサテ折ニハ上修カカフリカカノム子ヲ左
ムケツクホウニ

右四本ノ形ハ春夏秋冬ノ四
時ヲ表シ又天地四方ノ圓
滿ニ蒙ル也

兵法傳記

異國ニテ兵子孫子七書等ヲ兵法ト云
日本ニテハ多由滿仲時代ヨリ軍等ニ出ル時存平日大小ヲ
帶スルニ是ヲ兵法ト云
鎗ハ太平記時代ヨリ初ルヨシ

凡日城之兵法皆其原委曰鹿

鳴神流者傳言本朝將師任

起於神代而其初

天照太神欲降天孫於豐

葦原中國之時遣經津主神

マヨリ 日本ノ事 城ハ日ノカコヒラニ

其本

日本ノ事 大將ノ

天照皇ノ御孫

日本

兵法傳記

凡日城之兵法其本其原委曰鹿

鳴神流者傳言日本事本朝將師任

起於神代而其初

天照太神欲降天孫於豐

葦原中國之時遣經津主神

又齊主神鹿鳴神令平香取神是

諸不順者矣而今以神職擬之

人職天孫降臨者蓋准征夷

大將軍鹿鳴香取之兩神准

副將軍八百萬神恐神威

而平伏之惡神悉追伐之後

鎮坐於常陸國鹿嶋萬世

尊崇之武神也代以武事鳴子

世者皆無不宗於是神矣况乎

吾家之兵法者其先親蒙授

是以曰鹿鳴神流其後嗣々

相承以異記大略如左

一第一鹿鳴神流之元祖杉本備

杉本は足利時代
山名宗前細川ト
年我ノ時鹿嶋
惣領ノ首ノヨク
發シ人ニ鹿嶋
通夜ニ戰場出

前守紀政元住于常陸國日暮

奉祈鹿嶋之廣前而却神慮一

夜夢授賜一卷之書源九郎義經

一第一鹿嶋神流之元祖杉本備

山名宗前細川ト七
年戰ノ時鹿嶋
惣頭ニ首クヨクニ
致シ人ニ鹿嶋ニ
通夜シテ戰場ニ出
ル

前守紀政元住于常陸國日暮

奉祈鹿嶋之廣前而却神慮一

源九郎義經
所奉納之書也云

夜夢授賜一卷之書

正是為神傳之故稱之曰神

上泉ハ長野信濃守末家ノヨシ本國常而義經城主也
此人度信玄仕儀ハ信玄信虎ヲ配シタマフニ其事ヲ憤
リ暇ヲ申受其後又ハ諸國武者終行ニ出シ人ナリ

一第二上泉伊勢守藤原秀綱者

杉本門下之正統而兵法之達人也以

鹿流應恐神字改神陰而稱乎

新陰

奥山赤山氏奥平家末裔ノヨシ今ニ
奥平家ニ其末有之

一第三奥山孫次郎平公重後號休賀

齊考一流之家系其先奥平家之

末裔也繼上泉伊勢守兵法之正

統而以住于三列奥山年尚矣日

夜詣至於奥山產神之社祈願

為兵法之津梁水滸マレ此ヲ大ニ流レ出ス心深ハヤナリ或夜蒙夢於神託

改神陰號神影爾後舞劍如影隨

形イフシメハカリ警策門人以震威風於東海

一箇無對其刃者矣既而奉始

東照神君至秀忠公及御連

枝共蒙台命以奉授兵法之奧

義

小笠原公御同家ニ本國信州天下ニ知ラレ程ノ劍術ノ達人
勿論日本ニテ劍術未足思ハ入唐マテシタル人ノ唐ニテ彼術
ヲ得テ歸リシ人ニ其時分唐ニテハ明ノ世未ク其術甚妙
術ヲ得レユエ中葉ニテテ弟子多出來ルヨシ長良ノ末ト
門人ニナリシヨシハ

一第四小笠原金左衛門尉源長治

後號源信齊兵法熟練而入唐更

物シヤクシテレタルト

小笠原公御自家之本國信州天下ニ知ラレ程ノ劍術ノ達人
勿論日本ニテ劍術未足ニ思ヒ入唐マテシタル人ノ唐ニテ劍術
ヲ得テ歸リシ人ニ其時分唐ニテハ明ノ世ニ未ク其術甚妙
術ヲ得レユエ中華ニテ弟子多出來ルヨシ長良ノ末十ト
門人ニナリシヨシ

一 弟四小笠原金左衛門尉源長治

後號源信齋兵法熟練而入唐更

得妙術還奧山一派之正統也有

故改神影之名曰真新陰百練

精金色轉鮮

一 弟五神谷文九衛門尉平真光

後號傳心齋最英靈也改真

新陰曰新陰直心流傳言神

則心也新直指而竟做流種

一 弟六高橋彈正左衛門尉源重治

後號直翁齋寬永而至元祿誘

引門人務兵法歎流派多端而混

支流故以直心正統為吾家之流

號

高橋門人ノ長沼父ノ流義甚深仰ニテ三六特中
無解ト是出措拙劣古ノ節ハ矢立持武藝ナク
其外所々唯合未能ク心掛シ人々

一 弟七山田平左衛門尉藤原光德隱退

明德ナリ

サトリエテ
コトナリ

明鏡ナリ
タルコトナリ
チク明ナレハ神心トツクナリ

高橋ハ山城邊ノ城主十カ石ニ永井信濃守家臣ニ
在達人ナリ折笈主人中ナラレハ筋力ノ鉄砲ヲ出
サレシナリナリ歩候ヘト申サレケレハ再三辭退修マシ
非不及シマシユエ心志更ニ折也候也
在此人大兵隊ルヨシ誠ニ心ヲ掛ケテ
右ノ通クホミ申ヨシ

カワイニナヒク
コトナリ

流派多ク候ニテ改テ直心
正統ヲ吾家ノ流トス

號

高橋門人之長沼父之流義甚深仰三子三將中
無解之出精拙者古ノ節ハ矢立持武藝ノ才ト
其外斯々唯合未能心掛シ人々

一弟七山田平左門尉藤原光德隱退

而曰一風齊重治手書直心正統的

傳之印狀以付讓ル屬于光德新傳於

直心正統流無極之微意思前

顧後以改流號曰直心影流而已

山田ノ弟三子之右邊人々

一弟八長沼四郎左衛門尉藤原國

鄉光德弟三子也天性敏劍術

弱冠悟其溫奧術過二兄父

奇之悟ル悉傳其秘弟子殆三千

終身教之不倦只以真實

之業獨能育其才矣

一弟九長沼四郎左衛門尉藤原

德鄉國鄉子既能繼箕裘

之業不影孳々不怠年三十有

六而卒人皆悼惜之

一流別號次序各宜一覽而知焉

龍之卷

六軸三略ノ内ノ師子ノ卷虎卷三卷内ノ龍卷

一流別號次序各宜一覽而知焉

六軸三略ノ内ノ師子卷虎卷三卷内ノ龍卷

龍之卷

尊師曰鑑劍德隱陽而氣者

三ツノ氣ヲ申ス陰ハ陽ノ上氣陽ノ下ナリ三ツノ氣スルヲ水火土ニシテ

勝負也陰勝則陽退陽勝則

陰退陰陽元是一氣也艱其

一氣者自成英雄其志之長

子入三ノノヲ

厚長則生活物之情至既而

雨ノレノ若クハヤウナリト、カウラサレラニ

通三集虛實往來之氣則

三ツノ氣ヲ貯下胸此氣一ツニシテハ何ヲモ出スルナリ

天地神州共物押移變動

カハレト

無常因歎轉化耳誠生得

ウマレツキ

之維強勇豈足忍哉然別

ナントス

其道武成之大元也故上

有寶劍朝成盛之子親之

因存幸前之止安置之

ヤスクナシ

御寐擊之勢玉解之故

御物ニサシ

カシキモ

御化ノ

然寶劍之德化流以命

カシキモ

ハヤル

下施塵土那翔哉於武

モウ

臣夙夜帶之宗之如神

宗

ウヤマウ

靈保之如身心以武門之

然寶劍之德化流於命

下抱（モウ）鹿士那（モウ）刺哉於武

臣（ウヤマウ）夙夜帶之（ウヤマウ）宗之如神

靈保之如身心以武門之

安害（ツメキハ）成（マコトナクテナラヌモノナリ）孤（トクセウ）牙（ツメキハ）舌（ツメキハ）視（ツメキハ）去（ツメキハ）性（ツメキハ）

靈（ツメキハ）牙（ツメキハ）者（ツメキハ）吟（ツメキハ）之（ツメキハ）有（ツメキハ）仇（ツメキハ）者（ツメキハ）

振（ツメキハ）之（ツメキハ）有（ツメキハ）針（ツメキハ）者（ツメキハ）刺（ツメキハ）之（ツメキハ）類（ツメキハ）難（ツメキハ）

与（ツメキハ）教（ツメキハ）之（ツメキハ）理（ツメキハ）自（ツメキハ）然（ツメキハ）也（ツメキハ）禽（ツメキハ）獸（ツメキハ）

少（ツメキハ）此（ツメキハ）凡（ツメキハ）人（ツメキハ）道（ツメキハ）者（ツメキハ）用（ツメキハ）何（ツメキハ）乎（ツメキハ）為（ツメキハ）仇（ツメキハ）

牙（ツメキハ）是（ツメキハ）則（ツメキハ）氣（ツメキハ）哉（ツメキハ）也（ツメキハ）人（ツメキハ）身（ツメキハ）帶（ツメキハ）之（ツメキハ）

成（ツメキハ）用（ツメキハ）事（ツメキハ）雖（ツメキハ）區（ツメキハ）專（ツメキハ）武（ツメキハ）備（ツメキハ）之（ツメキハ）

肝（ツメキハ）要（ツメキハ）全（ツメキハ）年（ツメキハ）并（ツメキハ）幼（ツメキハ）也（ツメキハ）若（ツメキハ）誤（ツメキハ）而（ツメキハ）

与（ツメキハ）學（ツメキハ）者（ツメキハ）白（ツメキハ）刃（ツメキハ）絕（ツメキハ）交（ツメキハ）綴（ツメキハ）難（ツメキハ）

帶（ツメキハ）之（ツメキハ）爭（ツメキハ）難（ツメキハ）成（ツメキハ）其（ツメキハ）用（ツメキハ）還（ツメキハ）而（ツメキハ）

未（ツメキハ）送（ツメキハ）乎（ツメキハ）以（ツメキハ）是（ツメキハ）為（ツメキハ）去（ツメキハ）稱（ツメキハ）其（ツメキハ）

法（ツメキハ）令（ツメキハ）入（ツメキハ）道（ツメキハ）類（ツメキハ）為（ツメキハ）習（ツメキハ）武（ツメキハ）刺（ツメキハ）也（ツメキハ）

古（ツメキハ）人（ツメキハ）崇（ツメキハ）流（ツメキハ）義（ツメキハ）少（ツメキハ）天（ツメキハ）天（ツメキハ）也（ツメキハ）孫（ツメキハ）

氣（ツメキハ）者（ツメキハ）少（ツメキハ）明（ツメキハ）口（ツメキハ）月（ツメキハ）謹（ツメキハ）而（ツメキハ）忽（ツメキハ）忘（ツメキハ）

體意

古人崇流義少失天也ウヤマウ孫ウヤマウ

氣者少明日月謹而忽也ウヤマウ

體意

史人性之靈福一覺對父則仁孝對君則忠儀對朋友則禮信此本心者人固コトイフ有之知而所謂明德也コトイフ是矣強剛毅謂之大勇莫所コトイフ分聖思以難之大ニミツル橫充為武門之業日城秋津日本一例文道武道コトイフ兼備多者以武為重故我流謂修行者難彼勇而分コトイフ虛實マコト深シ以禦オシ亂宗慈愛之アハレミ心行而習仁義礼智信立キツトスル常以齊治造イダシ次コトイフ顛沛無怠之積切琢玉一之切キツトスル竭鍛練之工夫古曰玉不琢不コトイフ器成人不學不知道謹而勿急コトイフ惜コトイフ云云

法定

抒直心影一流可稽古御行コトイフ者之以從元志立從誠至實以實為理以理為實亦以理為新コトイフ作所謂形名者コトイフ居善又而難而可勢之煩而勿急コトイフ云云

一印ノ自然ト字乃出申すコトイフ

雞ノ夕コトイフ三十七日メニ空出申人モ修コトイフ種者教コトイフ度日及コトイフハナリシコトイフ上極意コトイフト申ルコトイフ

の二を長沼山脈、
の二を長沼山脈、
の二を長沼山脈、
の二を長沼山脈、

目録と次頁

一八相 破 發

四本は天地ノ形四季ヲ表スルナリ
八相ハハツノ形ノ物ハ八分目トナリハ
十分ニ勝スハ分目トコロガコロノ
一ツハイニノリアト二分重々ノ心
初ノ形ハ相和ノ形ノ發彼ハ和
十ルルヲ打破テ以氣味又ハ叙九
重ノ倍一ツ加ヘ氣味ヲ云ク

一刀西折

ニツテ一ツハ形を破る心
只一刀で入るはこうして

十此氣ヲ打破テ以氣味又ハ氣九
重ノ倍一ツ加ヘ氣味云々

一刀西斬

ニツリ一ツカ以て破る心ヲ
只一刀にしてスルは一ツツ

一右轉左結

旋 左メケル
カエル

單の切一と云ふは其を以て將
く其の天の四角をもみ切るなり
其の時其の切る單の角の旋を
其の切るヤカラは其なり

一長短一味

一神意が如く一と云ふは其の
一ツツの心何れハ長短の長短
其味を以て其の切る形

一勢尾 左

其の切る勢尾と云ふは其の
勢尾の切る中を以て
其の切る勢尾の切る形

一面影 左

其の切る一面影と云ふは其の
一面影の切る中を以て
其の切る一面影の切る形

一鉄破 進

其の切る鉄破と云ふは其の
鉄破の切る中を以て
其の切る鉄破の切る形

一垂風 左

其の切る垂風と云ふは其の
垂風の切る中を以て
其の切る垂風の切る形

山破之云何... 此ノ部ノと拂之佛... 山破之云何...

一 雲風 六

エシクハイト云ハ古ハ猿猴サ苦候とね
此ノ部ノと拂之佛... 山破之云何...

一 早船 六

シヤノ形... 此ノ部ノと拂之佛... 山破之云何...

一 曲澤

曲金... 此ノ部ノと拂之佛... 山破之云何...

一 圓連 刀連 體連

此ノ部ノと拂之佛... 山破之云何...

六 口傳

一 陰之構之度

陰ノ構... 此ノ部ノと拂之佛... 山破之云何...

一 陽之度

一陰之構之支

強く上段より形體より上持
陰ノ構亦一筋直ニ上支也

一陽之構之支

弱ハ力能ク右形制より體より力
持より向ニ後より向り也

一相稱之支

亦一構亦通一筋直也

一相心之支

亦一氣貫する如き之也

一相尺之支

亦一尺を向りて相尺也

一目附之支

目付ノ支と云ふは字之部ナドハ
敵の服中ニ於ても相ノシホウ
なる也

一仕無之支

客理の甚きものヲ無格年ノ支系
乃一筋直ニ向りて仕無也

一手の内之支

茶巾絞リ心付筋直ニナイヲ握也

一横一文字之支

向りて横ニ太刀打也ハ此方より
横より打也

一留一文字之支

右りり

一留三段之支

亦一筋直ニ向りて留三段也

三ヶレハ...

二十西 非庄

此十餘ハ...

カマンカシシ トシヨリ イカリ
サワシ アフミ ウタカイ マヨイ
アナスリ マンシシ

腸...

...

右見後も...

と地...

...

書後...

...

...

...

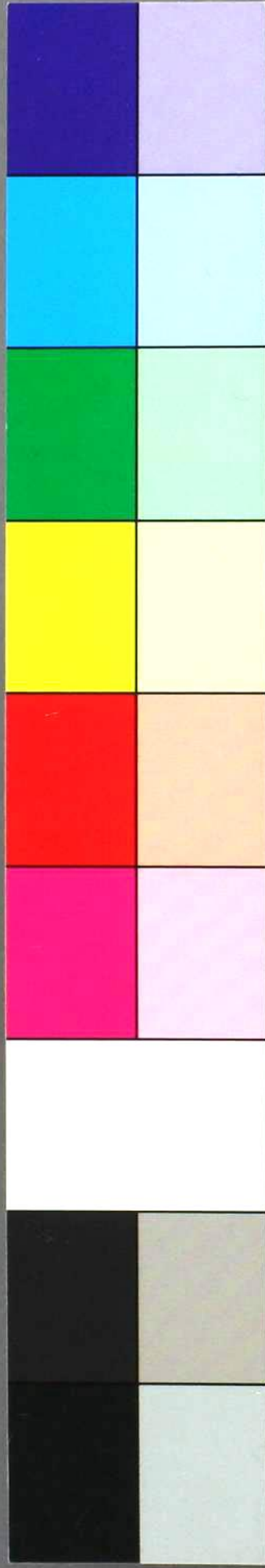
六寛政十二...

長沼...

小川彌七...

六宮之政十二度申奉於江之身夜
長沼在信濃之里今傳授託之遺

小川彌七郎海



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1



特 別
ケ 5
1032
3